

【用語】永井宿―利根郡新治村 越国より出米―越後から上州へ流入する米 手馬―自分の馬 不勝手―生計が立たないこと 駄賃―運び賃 浅貝馬―越後国浅貝宿(新潟県湯沢町)からの馬荷物 升取り―枴で物を量ること 附出シ―馬の背に荷物を付けて送り出すこと

【解説】江戸と越後・佐渡を結ぶ三国街道は、脇往還とはいえ南北日本をつなぐ最短路で、全二五カ宿のうち上野国内には金古から永井まで一カ宿があつた。上野国最後の宿場で三国峠下に位置する永井宿は峠越えの拠点であり、往来する旅人や荷物の輸送でにぎわつた。なかでも越後の幕府領地域から関東へ流入した米は、寛文期頃から永井宿で升立て(三斗五升入りの俵に詰め直すこと)が行われ売買が統制されていたため、元禄期頃から各地域の米穀商人たちが永井の米市場へ集まり取引が盛んに行われた。しかし、米の需要が増大するにつれて、永井宿の升立て問屋の存在を無視して越後から直接米を買い付け、自らの馬で輸送する例が多くなつてきた。また、越後の米商人らも永井市場で取引きしないで、月夜野・沼田・中之条方面へ直接売りつけることが目立つてきた。

この文書は、このような米穀商人らの動きに対処するため、永井宿の村民二三人が連印して越後出米の取引きや輸送方法などについて再確認したものである。なお、このことは永井宿における米市場の独占的体制が揺らぎ始めてきたことを示している。